

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171600275		
法人名	有限会社 森		
事業所名	グループホーム いこいの森		
所在地	佐賀県杵島郡白石町大字戸ヶ里1811		
自己評価作成日	平成22年2月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigojouhou-saga.jp/kaigosip/Top.do
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成22年2月26日	外部評価確定日	平成22年4月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>○理念に「ありのままのあなたを受け入れます」とあるように心身の状況はもちろんこれまでの人生すべてを含め、今あるがままの状態を受け入れ、今後も「認知症でも大丈夫です。今のあなたがあなたです。あなたらしく生き続けてほしい」という気持ちを職員全員が持ち支援を行っているとともに現在持っている力を発揮してもらうよう自立支援を目指している。</p> <p>○建物1階部分には協力医療機関がある利点を生かし、医療と連携して健康管理に努め、看取り介護を行っている。建物3階には併設型認知症対応型デイサービスがあり、利用者同士の交流も盛んである。また21年10月からは共用型認知症デイサービス(3名)も開始した。</p> <p>○運営推進会議には、利用者本人、家族、地域住民等多数の参加があり、運営に際し、建設的な意見と共に実際協力も得ている。家族会もあり、家族会主催の行事も開催されている。開所当初からの定期的な地域ボランティア等との交流も盛んで開かれたグループホーム運営を常に目指している。</p> <p>○壁面飾りに力をいれ、季節ごとに飾り付けをしている。職員が月ごとに担当し、玄関やエレベーターの飾りつけも行っている。全職員で担当することで職員間の連携がとれ、作品制作を通して感性を磨くことにも繋がり、心豊かになることを目指している。</p> <p>○職員は、利用者の心身の状態を観察し、変化に気をつけて、日々の申し送りや毎月のケアカンファレンスで情報の共有化を行い、対策を講じている。認知身体機能の低下により外出が困難になってきた利用者には室内でも楽しめるよう努力している。</p> <p>○研修月間を設け、全職員を外部研修に参加させ、介護知識や技術の向上に努めている。内部研修にも力をいれ、開所以来毎月職員研修会も実施している。</p> <p>○開所当初より、代表者(管理者)は、介護職員の不安やストレスを軽減するため人員配置(人数)に配慮している。平成19年、20年、21年共に職員の退職はない。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>1階が医療機関で、ホームは2階に位置している。医療との連携という点で、入居者や家族が安心感を持ち、緊急時の対応においてもホームにとって大きな力となり、看取り介護への職員の自信に繋がっている。母体の医療機関は、町の病院として住民に親しまれてきた経緯があり、ホームが地域密着型として、日頃の関係や防災訓練などの協力体制の他、町内で認知症介護の啓発活動にも力を入れていることは評価したい点である。又これまで家族との関係の継続を大切に考えて支援してきたことで、家族が主体となり家族会を開催するまでに至っている。管理者や職員が「今のあなたをあるがままに受け入れる」という想いを、日常のケアで実践しているのが窺える温かいホームである。</p>
--

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者一人ひとりの個性やこれまでの生活を大切に、継続できるよう支えていくことを理念に明示し、それを開所当初から掲げている。職員全員で作った理念である。施設内にも数箇所掲示してそれに沿った支援が出来るように日々努力している。研修会でも繰り返し話題に上げている。	開設時に職員全員でつくった理念は、入居者のあるがままを受け入れ、地域で暮らすことを支援することを大切にしており、管理者を始め、職員全員が一丸となり実践につなげるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	クリーンデイやゴミ収集所掃除など自治会活動に積極的に参加している。また運営推進会議や防災訓練などへ地域住民の参加も多い。地域が催す夏祭りやグラウンドゴルフ等の行事にも利用者と共に参加している。また管理者は、老人会の会合に顔を出したり、地区活動にも参加している。	一区民として区費を支払い、地域の清掃活動への参加など、進んで自治会に参加するホームの姿勢が、地域住民の運営推進会議や防災訓練への協力につながっている。町の行事に積極的に参加し、ホームへの訪問も多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	21年度のキャラバンメイト養成講座を6名受講した。運営推進会議では参加の地域住民と話し合いを行い、老人会でサポーター養成講座を開催した。地区区長と日程調整をして今年度中に町の商工会を対象に養成講座開催を予定している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、運営推進会議では、2ヶ月毎の利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況を文書及びパワーポイントを使い報告している。会議には、区長、民生委員、地区消防団、老人会会長、駐在所長、町役場担当者、介護相談員等の参加があり、さまざまな意見を頂いており、サービス向上に生かしている。	区長、民生委員、地区消防団や老人会会長、駐在所長等地域からの出席者が多く、運営推進会議の目的に沿った充実した話し合いが行われている。認知症介護の啓発活動として、商工会や老人会へサポーター養成講座を開催するきっかけにも繋がっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議参加は基より、日ごろから管理者は、町役場に出向いたり、電話などで町役場担当者との連絡を取っている。特に今年度は、防火設備(スプリンクラーの設置)について介護の現状を説明した上で何度も話し合いを行い検討した。	町担当者と、ホームの防災設備を検討するなど、日頃から、連携が取れるよう関係づくりに努めている。また町の包括支援センターへも積極的に働きかけ、関係が深まっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内には、職員が見えやすい場所に3箇所「身体拘束のない実践」ということで具体的な禁止行為を掲示し、防止に努め実践している。開所以来、日中は玄関の施錠はしたことがない。今年度は、職員研修会で言葉使い(スピーチロック)についても勉強した。	身体拘束についての具体的な禁止行為を掲示し、毎月の勉強会でも、職員の意識を高める内容を取り上げている。玄関の他、2階ホームの階段にも施錠をせず、見守りにより拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月、定例の職員研修会では、利用者個々の介護はもとより介護方法についても検討している。管理者も自ら介護に当たり職員の介護方法について適宜指導を行っており虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度、管理者はサービス事業管理者研修を受講し、権利擁護について学んだが、現在の利用者で活用したことはない。今後、必要なときは、関係者と話し合い、活用したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に際しては、複数回面談と説明を行っている。また、改定の際は、説明会を開き、全利用者家族に説明を行っている。解約の場合も納得いかれるまで繰り返し話し合いを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎回、運営推進会議には、家族の出席があり、意見を伺っている。年に2回は家族会も開催され、管理者(代表者)も参加し要望を尋ねている。家族参加のイベントや普段より面会も多く、家族の気持ちを把握するため管理者(代表者)がその都度お話をさせていただいている。	運営推進会議で家族からの意見を聴取したり、日常の面会で意見や要望を聴いている。また家族会も家族代表が世話人となり、行事参加を呼びかけたり、意見や要望を伝える機会がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者(代表者)は、毎回定例の職員研修会や主任会議も必ず出席し職員の意見を聞いて運営に反映させている。普段から管理者(代表者)も介護に従事しており日ごろから職員の気持ちの把握に努めている。	月1回の会議で、ケア内容についての意見や業務に対する提案など職員から聞き、運営に反映させている。管理者も業務に入ることで、入居者や職員の気持ちを理解し、サービスの向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年度は、8月に労働時間の短縮、10月より法人内の配置転換によるグループホーム職員の増員を行った。介護職員処遇改善交付金の申請も行い、給与水準、労働時間の短縮で職場環境や条件の整備に努めている。介護職員処遇改善交付金の職員交付は今年1月より開始した。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画を立て、毎月の職員研修会で勉強する事項を決めている。また、研修月間を設け、全職員を外部研修に参加させている。参加する研修項目は職員の力量に合わせて代表者(管理者)が決定している。職員より自主的に参加の希望があれば参加させている。資格取得のための支援もしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者(管理者)が発起人になり20年度に白石町グループホーム連携協議会を立ち上げた。今年度も町内5箇所の管理者やケアマネージャー等が交流し情報交換を行った(年6回)。佐賀県グループホーム協会の勉強会にも参加し、今年度はケアマネージャーが発表を行った。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込みあるいは入居決定の際は、自宅訪問あるいはグループホーム見学に来てもらい、その時点で困っていることや不安なこと、要望を尋ね、不安の軽減に努めている。そのときの表情や態度からも気持ちを汲み取りよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みは勿論入居決定時は、十分に時間をかけて話を聞き、表情や態度からも家族の気持ちを汲み取るよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の気持ちを第一に考えながら家族の希望も聞き、必要な支援を見極めるよう努力している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に暮らしを共にするもの同士と思い、職員は接するよう努めている。家事等では、若い職員が利用者に教えを請うこともある。また人生の先輩として利用者を敬うよう言葉使いにも気をつけている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居時に家族と職員の2人3脚で本人を支えたいとの方針を話し、家族に理解を求めている。入居後も面会時には、最近の状態を伝え、互いに何でも話せるような関係を築くよう努力している。毎月の便りでも状況を知らせたり、イベントには参加をお願いし、共に過ごしていただけるよう積極的な働きかけを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅で行われる行事(法事や祝い事等)には、できるだけ参加し、親戚や近所の方と会える機会を作ってほしいと家族にはお願いし、実施してもらっている。できない場合は、親戚の方にも来ていただけるよう家族に働きかけている。季節ごとに町内をドライブし、自宅近くや町内の様子を見ていただいている。	ホームへ入居後も、自宅の法事等の行事へ出かけてもらったり、馴染みの方をホームへ招いて食事を共にしてもらうなど、地域に暮らす方々との関係が継続するように支援している。共用型デイサービスを開始してから、近隣の利用者との関係も深まっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席やリビングでの過ごす位置を考慮し、会話や家事が楽しめるよう工夫している。難聴の方には職員が付き、必要に応じ会話や状況の説明を行ってレク等が楽しめるように常に気配りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	死亡退所の方が多く、葬儀に参列し弔辞を読ませて頂いた。入院により契約が終了された方の中には現在も家族がホームを訪ねられたり、自宅を訪問したりと関係が継続している。ご家族から相談があれば支援ができるよう体制を整えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃の関わりの中で利用者の思いに耳を傾けるようにしている。直接本人に希望を尋ねることも多い。困難な場合は、本人の日常の言動から意向を察し、毎月のカンファレンスで職員の認識の共通化を図っている。実践できることはすぐに実践している。	ケアの中で、本人の意向に耳を傾け、意思の疎通や意向の伝達が困難な方には、日頃の様子で気持ちを察し、会議を開いて職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人や家族から聞き取りは勿論のこと、日々の会話の中で昔話をしたりしてこれまでの生活の状況や暮らし方を把握している。把握したことは、毎月のケアカンファレンスで情報の共有をするよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝、申し送りを行い、昨夜の様子や前日の様子を出勤者全員で共有している。また入居者ごとに担当者がいて毎月のカンファレンスでは、その月の様子を報告し、現状把握に努めている。他の職員からも入居者個々の気になる点についての報告もある。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ケアカンファレンスを開催し話し合いを行っている。3ヶ月中間評価、6ヶ月評価時は、家族の参加をお願いしている。出来ない場合は、事前あるいは後日面会時や電話にて家族の意向や評価を尋ねている。本人に対しても話を聞き、介護計画に反映させている。	介護計画は、定期的又は必要時にそれぞれの意見を出し合い作成している。事前の評価をするにあたり、家族の参加をお願いし、本人や家族の意見を反映させるよう努めている。本人の言動など日々の記録も丁寧に記録されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々個人記録を記入するとともに、申し送りを行い、情報共有を行って個別の対応を行っている。日々の介護情報をもとに介護計画も見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望に応じて自宅訪問や外出、買い物、通院などできるだけ個人ごとに対応している。食事時間や入浴も体調に応じ臨機応変に対応している。併設のデイサービス、ボランティア、地域住民との交流を行い入居者が地域の一人として生活できるよう支援している。短期入居や共用型デイサービスも開始し、多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度からは、運営推進会議に地区駐在所も参加してもらい、入居者との顔合わせを行った。また夜間避難訓練も行き、廻里津区消防団14名に利用者の状況、建物の構造など説明した。民生委員、区長、老人会、近隣住民も行事等への参加があり、日頃から地域の方たちの見守りがある。地区行事にも利用者が参加される。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関とは毎日連絡ノートを交換し、主治医に体調を知らせている。体調不良の方については随時主治医から家族に説明があり、同意を得て管理者や看護師又はケアマネージャーが同席させてもらっている。家族の希望を伝え協力医療機関からの紹介で町内外の医療機関も受診している。	本人や家族の希望により、同意が得られた医療機関へ受診されている。母体の医療機関はもちろん、他の病院へも家族と共に付き添い、本人の状況を報告するなど、連携に努めている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護師、看護職員を配置(介護業務兼務)し、介護職員は情報や気づきを伝え相談している。個々の入居者が適切な受診や看護を受けられる体制作りを整えて、対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合は、早期に家族と医療ソーシャルワーカーと連絡を取り情報交換や面談、話し合いを行っている。退院が難しい場合も今後の希望を家族に聞き、医療機関関係者と連絡調整を行っている。これまでの利用者の通院や入院を通して病院関係者とは関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りについて家族に説明すると共に、家族の意向を文書で取っている。入居後も段階を踏みながら管理者、看護師、ケアマネージャーが協力医療機関の医師(主治医)と共に家族と話し合いを行っている。グループホームでの看取りを希望される場合は、ご家族様全員の意思の統一をお願いしている。	終末期の方針をホームで作成している。家族へ説明し、希望により看取りを行う場合には、医師と共に段階に応じた話し合いをしている。医療機関に併設したホームであり常に連携が取れることは、職員の支えになっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、数名ずつ応急手当や初期対応のための外部研修を受講している。受講後は報告の機会を設けている。また救急・応急手当マニュアルもある。今後も職員全員が実践力を身につけられるよう協力医療機関とも協力体制を強化したい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年2回以上実施している。訓練後は反省会を行い、全職員が訓練の把握ができるようにしている。また夜間は、職員配置が1名になるため、夜間を想定した訓練には全職員が参加し、地区消防団の協力も得て訓練を行っている。運営推進会議にも地区消防団からの参加もある。いつでも連絡できる環境になっている。	運営推進会議に地域の消防団も出席し、訓練についての検討を行い、協力を得ながら避難訓練を行っている。今年は地域住民へチラシの配布をし、協力も得て夜間に訓練を行うことができ、入居者や職員のよい経験となっている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重と「プライバシー」の確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に目上の人として意識し、声かけを行うよう努力している。職員研修会でも葉使いについて議題に上げ検討している。職員同士で言葉使いについて注意しあうようにしている。	言葉遣いについて職員が意識するように勉強会で話し合ったり、管理者や職員同士で注意している。排泄の申し送りなどもプライバシーに配慮し、理念である「ありのまま」を受け入れるケアを実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ本人が希望をあらわしたり自己決定しやすいように声かけや促し等の働きかけを行ってる。自己表示が難しい方は、表情や行動を観察し、気持ちを察するよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の体調や生活ペースに合わせ、生活していただけるよう努力している。基本の日課はあるが本人の希望に沿って参加自由である。参加を促す場合も本人体調や精神状態を観察しながら声かけを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪を希望される場合は、訪問美容を依頼している。本人の希望に沿って髪染めも行っている。服装についても季節ごとに衣類の入れ替えや購入を家族にお願いしている。毎日の着替えも選べる方には本人に選んでもらい服選びを行ってもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の介護度が重症化し、調理を行うとは難しくなっているが、野菜の下ごしらえやゴマすり、片付けなどは、毎日一緒に行っている。食事は、毎食職員も一緒に食べている。お代わりも自由に行ってもらっている。献立については、食べたいものを言われた場合は、取り入れるようにしている。	献立に希望食を取り入れたたり、利用者に食材の買い物や下ごしらえを手伝ってもらうなど、共に準備し、同じ食事をサポートしながら一緒に食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、食事バランスガイドを参考にしている。食べた量の把握も毎食行っている。介助や促しを行っても食事摂取量の少ない場合や体重の減少が著しい場合は、医療に相談している。水分については食事以外もお茶やおやつ時あるいは入浴後の飲水を促している。トイレの回数等も把握し、気をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後洗面台に促しや誘導を促し、口腔ケアをしている。歯ブラシの清潔も気をつけている。自力では難しい場合は、介助を行っている。食事時の咀嚼状況にも注意し、必要に応じて歯科受診をしてもらうようご家族に相談をしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック票を作って排泄パターンの把握を行い、随時、促しを行い、誘導している。特に排泄の訴えのない方は、時間を見て声かけ誘導を行っている。	一人ひとりの排泄パターンや身体機能に合わせて尿とりパットを変更するなど、金銭的な軽減に繋げたり、自立支援に繋げるケアを工夫しながら、個別対応に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給の促しを気にかけている。食事についても汁物をつけたり、野菜多く取り入れている。義歯等で咀嚼力が低下している人もいのでやわらかく調理するよう注意している。毎日の体操にも腹部マッサージを取り入れている。医療とも連携しているので、便秘が続く場合は下剤等の服薬指示も出る。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	夜間入浴を実施したが夕方血圧の高めの方が多かったため現在中止している。利用者の体調に合わせてスムーズに、気持ちよく入浴できる時間帯を見計らって入浴の支援を行っている。	夜間入浴を試みたり、入居者の希望や体調にあわせ、気持ちよく入っていただける支援を心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	共用スペースでは本人が好きなどころで好きなときに休息できるよう支援している。夜間、寝付けられない方については、無理に自室で休んでもいただくのではなく、リビングにて職員とゆっくり過ごしていただいている。必要に応じて添い寝もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に服薬内容をファイルして、確認するようにしている。処方変更や臨時薬等が出た場合は、毎日の申し送りや業務日誌にて申し送っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前の情報から好きなことを把握したり、グループホームでの生活状況から好きなことを把握するよう努力している。家事は、声かけを行いできるだけ入居者と共に行うようにしている。レクリエーションは手芸、歌や体操、ゲーム、買い物、ドライブなどをさまざまなことを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	レクリエーションで買い物やドライブに出かけている。戸外が好きな方、そうでない方もいるので、外出については個別対応している。自宅等に外出を希望される場合は、ご家族と連絡調整を行い、出かけてもらっている。	日常的な散歩や買い物、ドライブ等行事としての外出の他、個別の希望に添いながら外出の支援をしている。又、家族との関係を継続してもらうためにも、家族の協力を得ることは大切と考えて連絡し家族と一緒に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居前にご家族とお話して、本人の管理できる範囲で所持してもらっているが現在、現金を所持している方はいない。外出時の買い物は、好きなものを買ってもらい立替を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は2箇所あり、自宅に電話をかけられる環境を整えている。希望があればかけてもらったり、取次ぎを行っている。年賀状や手紙、また返事も書いてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	必要に応じ混乱がない程度に共用スペースは、レイアウトを変更して過ごしやすい環境を整えている。照明や日差しも細かに調整している。壁面は季節ごとに飾り付けを行い、明るく居心地良く過ごせるよう工夫している。	共用のホールは明るく、ゆったりとくつろげるソファや、個別に過ごせる空間がある。季節を感じさせるお雛様の飾りが懐かしさを感じさせ、おしゃべりや手作業など思い思いに過ごされている。入居者の作品であるちぎり絵もほのぼのとしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはテーブル席、ソファがあり、好きなところで過ごしていただけるよう工夫している。入り口には、別にテーブルと椅子、畳の間もあり、思い思いに過ごせる環境作りに努力している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、居室を見てもらい馴染みの鏡台やタンス等を配置していただいている。入居後も本人や家族と相談し写真や人形等配置等を工夫している。	居室は個々の状態や希望に応じ、ベットを配置したり、馴染みの三面鏡や筆筒を持参されている。本人が使いやすいように工夫され、ホッとできる空間である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すり、トイレの表示、部屋には名札をかけて歩行しやすいよう、わかりやすいよう工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない